

学術フォーラムの概要について（事後報告）

- 1 名称：アジアのメガシティ東京 その現状と日本の役割
- 2 日本学術会議以外の共同主催団体等：
 - ・主催：日本学術会議（企画 第一部国際協力分科会）
 - ・後援：日本経済学会、日本都市社会学会、東京都環境科学研究所、政策研究大学院大学、一橋大学大学院社会学研究科
- 3 開催日時：平成 27 年 7 月 11 日（土） 13 時 30 分～17 時 30 分
- 4 開催場所：日本学術会議講堂

5 開催趣旨：

アジアの成長を象徴するのがメガシティ（1000 万人以上の大都市）です。中国では大都市の創成が国策として展開され、今後規模も数も急速に増加するものと予想されます。他のアジア諸国もメガシティ作りを競っています。そのなかで、東京は、欧米で大都市が出現したのとほぼ同じ時期にメガシティとなり、経済成長にともなって直面した交通混雑、水不足、大気や水質汚染、住宅不足等を次々に克服してきました。長期の歴史で見ても、江戸幕府の成立以降、明治維新、関東大震災からの復興、戦後復興にともなう東京府の廃止など、何度かの大きな転換点に最新技術の投入と制度設計が行われ、意思決定や資源分配の制度が徐々に成熟してきたと言えるでしょう。本シンポジウムでは、人文・社会科学の視点からアジアのメガシティ東京の経験と現状を整理して、それが日本とアジアの将来に示唆するものを探りました。

報告は、東京の現状を大都市のグローバル・ヒストリー、人口動態、とくに少子高齢化の視点から論じるものと、重要課題である災害に対する市場と行政の対応について論じるものを 2 本ずつ行いました。パネルディスカッションでは、アジアの視点を加え、議論を広げました。

6 参加人数：

講演者等：10 名

その他の参加者：約 50 名

7 特記事項：

『学術の動向』で特集を組むことを予定しています。また、このテーマをさらに発展させ、書物の刊行を目指す案も浮上しています。